

校長室通信 7/10 33号

家族・交流証言講話

昨日7月9日に永井徳三郎(ながい とくさぶろう)さんに来校いただき、子供たちに平和について話をしていただきました。

徳三郎さんは、爆心地から約700mの長崎医科大学研究室で被爆した祖父、永井隆博士のお孫さんにあたり、当時10歳だった父、永井誠一(まこと)さんの子供です。その祖父と父の被爆体験を話してくださいました。祖父の隆さんは被爆当時37歳でいあり、自身も大けがを負いながら、三山町木場に救護所を開設し、原爆傷病者の救護にあたったそうです。前向きな考えの持ち主であった祖父隆さん。「如己愛人」(おのれのごとくひとをあいせよ)や「平和を」についても話してくださいました。祖母の緑(みどり)さんは原爆により自宅の台所で亡くなった悲惨な状況についても話してくださいました。最後に児童を代表して、6年「小川怜太郎」さんが、お礼の言葉を述べました。

子供たちは熱中症予防のため、5年2組が対面で、各学級は教室でライブ配信しました。真剣に耳を傾ける子供たちの姿に平和を守っていかねばならない大人の責任の重さを感じました。

地域の方も永井徳三郎さんの話を聞きに来てくださいました。その際、主任児童委員の眞弓さんが、千羽鶴ならぬ二千羽鶴をもってきてくださいました。8月9日に向けて子供たちも作成しているところです。

